



森と海の自然科

2025 年 2 月 23 日

弥生文化博物館と池上曾根遺跡見学報告

- 1, 日時 2025年2月20日
- 2, 集合場所、時間 JR 阪和線 信太山駅 10時30分
- 3, 参加人数 23人

行程

信太山駅から徒歩 15 分で弥生博物館到着。館内で学芸員から映像で、弥生文化博物館の設立理念について、池上曾根遺跡のサイトミュージアムで弥生文化全般を対象とする全国で唯一の博物館であると説明をうける。テーマゾーンが6つに分かれている。それぞれについての詳細な説明あり。

- ① 米作りの始まり：大陸から伝わった稲作システムの受容（現在との相違は機械未使用の点のみ）
- ② 新しい技術の始まり：青銅器、鉄器（日本ではほぼ同時期、用途の差）の受容
- ③ ムラ、戦、クニ：共同体の拡大
- ④ 弥生人：男性は入れ墨をしていた。食器類使用も手掴みで食事、生野菜も食す。（魏志倭人伝から判明）足指のひろがりから長距離歩行をしていたことがわかっている。
- ⑤ 交流：糸魚川でとれる翡翠や、沖縄で採取可能なゴホウラ（貝）などの存在により列島内での交流と、東アジアとの交流の存在。
- ⑥ 死とまつり：地域によって墓制がことなること。

等説明をうけ、その後各自見学。スケジュールの関係で30分と短い時間で大急ぎで第2展示室—土器と木器の展示あり—へ。タコつぼも展示されていてびっくり。（ちなみにフグも食べていたとか）

12時10分：竪穴住居を建てる体験。説明書の読みあげで、あっという間完成して記念写真撮影。その後は分散して昼食タイム。

13時40分：池上曾根史跡公園に再集合。

池上曾根遺跡：和泉市池上町・泉大津市曾根町に広がる南北約1500m、東西約200mにおよぶ弥生時代を通じて営まれた環濠集落の跡で、弥生時代の海岸線からは約1km内陸に位置する。

明治の終わりごろ、地元の南繫則氏によって発見された。

集合後ボランティアガイドさんから寒風のなか、遺跡前にて説明をうける。(大型堀立柱建物と大型くりぬき井戸について) 寒いので早々にきりあげてもらう

14時30分：池上曾根弥生学習館到着

展示ホールのガラス床の下に一大型堀立柱建物の柱と、大型くりぬき井戸（直径 2.3mの楠井筒）が見つかった当時の発掘現場を再現しているのを見学し、実感できた。

ガイダンスルームでは、柱に使用している太い木が紀元前52年前に伐採されたことが解明されていることや、地層を模した壁の引き出しにある展示品を楽しみながら学習。

15時：学習館にて解散

見学後この地上の池上曾根遺跡がなぜ遺跡としてしか存在していないのか？大きな自然災害はなかったはず。戦いがあったのか、権力者の存在はどうだったのか？卑弥呼の邪馬台国の出現はおそらく2～300年後と考えられるし、等々疑問が湧いてきました。

同時に以前に訪れた纏向遺跡や、時代がもう少し進んだ多くの古墳なども思いだされました。歴史でのワンポイントや、短期間を観察しただけでは見えてこないものがあり、また現在を読み解くためには、継続性についてもっと研究が進めば興味深いものになるのでは？

(文責：倭 写真提供：福嶋昭治さん、秦さん)

